

2019 年度学内研究助成 成果報告書

① 報告者所属・氏名

生活科学部生活文化学科・越山沙千子

② 事業名

東京府立第四高等女学校における野矢トキの授業に関する一考察
(音楽界、音楽教育界の動向との関連性の検討)

③ 事業の目的

本研究は、戦前期の高等女学校における音楽教育がどうなされ、どのような教育的意義や成果、課題があったのかを明らかにするために、東京府立第四高等女学校（現：東京都立南多摩中等教育学校、以下、第四高女）に長年勤めた野矢トキの授業実践を、当時の音楽界、音楽教育界の動向と関連付けて調査、考察することを目的とする。

④ 事業実績・研究成果（具体的に）

2019 年度は、卒業生が授業で使用したノートを調査し、野矢の授業内容のうち歌唱教材の作詞・作曲者、原曲、音楽的特徴を分析した。その結果、以下の点が明らかになった。

1. 様々な出版物（教科書や教材集、ピース楽譜）に掲載された歌を教材としていた。
2. 日本歌曲だけではなく、19 世紀ロマン派の主要ジャンル（イタリア、フランス、ドイツのオペラ、カンツォーネ、イタリア歌曲、ドイツ・リート、フランス歌曲）、イギリス及びアメリカの讃美歌や民謡といった幅広いジャンルを取り上げていた。
3. 歌いながら楽典の知識も身につくような、音楽的特徴も考慮した教材配列であった。
4. 野矢は教科書を用いていなかったが、上記の教育内容は、「高等女学校教授要目」及び高等女学校の教科書の内容に概ね対応していた。
5. 教科書使用の是非については様々な考えがあったこと、明治以降の多くの教科書が歌唱と楽典から構成されていたが、昭和初期になると音楽史や鑑賞も含む教科書が出てきており、専門的かつ高度な教育をすることが目指されていた。

⑤ 研究成果の発表・活用（学会発表・論文掲載・地域連携・産学連携など）

「高等女学校の音楽教育が洋楽受容に果たした役割 ——東京府立第四高等女学校音楽教諭・野矢トキの授業実践を中心に——」音楽教育史学会第 32 回大会（東京学芸大学）

「東京府立第四高等女学校の音楽教諭・野矢トキが選んだうた—卒業生の『音楽ノート』を手がかりに—」日本音楽教育学会第 50 回大会（東京藝術大学）

「東京府立第四高等女学校における野矢トキの授業実践—昭和 11（1936）年卒業生の『音楽ノート』を手がかりに—」『実践女子大学生生活科学部紀要』第 57 号

「【歴史発見】野矢トキ先生の音楽の授業②—卒業生のノートを手がかりに—」『みなみたま』第 11 号

⑥ 今後の展開・継続性について

- ・高等女学校の音楽科教育の全体像を明らかにするため、教科書の分析を行う。
- ・区部の高等女学校の授業実践との比較を行う。